令和7年度

経済福祉常任委員会会議録

令和7年6月9日

福島町議会

会議録の作成にあたっては、誤りのないよう留意しておりますが、時間の関係上、原稿校正は初校よりできなく、誤字、脱字がありましたら、深くお詫び申し上げます。

まことに恐れ入りますが、ご了承のうえご判読いただきたくお願いいたします。

福島町議会議長 溝 部 幸 基

令和7年度

経済福祉常任委員会

令和7年6月9日（月曜日）第1号

◎案件

(1) 意見書の採択について

①ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める意見書

〔陳情団体：北海道森林・林業・林産業活性化促進議員連盟協議会 幹事長 三好 雅
：北海道町村議会議長会 会長 渡部 孝樹〕

②令和7年度北海道最低賃金改正等に関する意見書

〔陳情団体 福島地区連合会 会長 堀 耕一〕

③安定的な地域医療の確保に向け公立病院等への財政支援を求める意見書

〔陳情団体 渡島町村議会議長会 会長 伊藤 幸司〕

(2) 定例会6月会議後の休会中の所管事務調査について

(3) 報告事項について

報告事項1 福島町水道布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術者資格基準に関する条例の一部を改正する条例

◎出席委員（5名）

委員長	佐藤 孝 男	副委員長	小鹿 昭 義
委員	平沼 昌 平	委員	平野 隆 雄
委員	溝部 幸 基		

◎欠席委員（0名）

◎委員外議員（2名）

議員	藤山 大	議員	熊野 茂 夫
----	------	----	--------

◎出席説明員

町長	鳴海 清 春	産業課長	福原 貴 之
----	--------	------	--------

◎職務のため議場に出席した議会事務局職員

議会事務局長	鍋谷 浩 行	議会事務局議事係長	山下 貴 義
議会事務局議事係	角谷 里 紗		

○委員長（佐藤孝男）

おはようございます。

ただいまから経済福祉常任委員会を開会いたします。

本日の案件は、次第に記載のとおり、意見書の採択と6月会議後の休会中の所管事務調査についてとなっておりますが、案件に入る前に申し出がありますので、町から報告を受けます。

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

改めまして、おはようございます。

経済福祉常任委員会の貴重な時間をいただきまして、ありがとうございます。

まずは、私のほうから少しお詫びを申し上げたいなと思ってございます。

本来ですと、今日報告するような事業については、委員会にしっかりお諮りしながらこれまでやってきたところでもありますけども、ちょっと6月私の出張が多すぎまして、ちょっと議長とも一緒に長野のほうも行ったりで時間取れないなかで、この場を借りてということで報告させていただきますことを、まずお詫びを申し上げたいなと思ってございます。

それでは私のほうから、定例会6月会議の補正に係る新規事業の経過を報告させていただきます。

まず1点目が、今日資料配っていると思うんですけども、まだ目をあまり通していない方もいますので、私のほうから概要だけちょっと説明させていただきます。

ウニの種苗育成センター改修事業についてですが、議員ご承知のとおり、吉岡地区の旧施設、これは従来ヒラメセンターから引き継いだ形のなかで今まで種苗センターとなってやらせていただきましたけども、新たな施設が日向のほうに建設されたということで、それに伴って吉岡の施設については遊休施設となっていたところでございます。

ただ、このたび、株式会社北海道シーウィードさんが先ほど言いましたヒラメのセンターそういったところの旧跡地の施設を使って、今少し前会長が福島の昆布に思入れがあって、未利用資源を活用したということで色んな形で食べる昆布、特に今は結び昆布が評価がいいようで、そちらのほうの作業をいただいております。

そんなことの話もありまして、今回お話しをいただき、活用についてお話しをいただいて、町としては今後のシーウィードさん、これは前会長については先ほど言いましたとおり思入れがありましたけど、代替わりをして新たな社長になりましたので、社長の今度の思いも我々しっかりこれから確認をしていきますけども、なるべく我々としてはしっかり福島で事業を展開していただきたいということで、少し町としてはシーウィードさんに事業を拡張をお願いする観点から、今回、遊んでいる施設を少し活用させていただいて、シーウィードさんのほうに貸し付けるという形。

ただ、施設がだいぶ建設から年数も経っていますし、また、施設自体が種苗センターという作りになっていますので、色んな活用には少し手を加えなければ難しいのかなということで、今回少し大きな予算とはなりますけども、町のほうでしっかり予算を確保して整備をしてしっかりそこで事業を展開していただきたいという思いで、今回予算の提案をさせていただきましたので、よろしく願います。

次は2点目の、アワビ陸上養殖生産等調査事業に関しましては、皆さんご承知のようにアワビの種苗を購入している岩手県大船渡市の北日本水産株式会社が、今般、我々もちょっと想定外と言いますか、まさかこういう事件と言いますか事故に遭うとは思いませんでしたが、森林火災の被害を受けて大変厳しい状況に置かれてございます。

当社の社長が何度か当町を訪れて、色々今後の対策を協議させていただきました。ただ、種苗は全くゼロということではなくて、親貝が少し助かっておりますので、早晚、復活はできるんだろうと思いますけども、ただやはり2、3年その間要しますので、我々のほうには少し時間が掛かるのかなという風に思っておりますし、また、あそこの本業は、しっかりアワビを育てて売ることが本業でございますので、そちらのほうもしっかり復旧させたいという思いがありますので、そういったものを我々としてはしっかり御縁をいただきましたので、そういった今後の種苗確保はもちろんですけれども、引き続きの縁をできればやっていきたいと思っておりますので、やはり、苦しい時に少し我々が協力してやることによって、また

縁が深まるのではないのかなと思ってございます。

そんなことで、ただ、社長の会話の中にですね、これまでのように大船渡で一箇所だけでやっていくのはちょっとどうなのかなというこの思いが少し言葉の端々に出てきます。

やはり、海水上昇という温暖化の影響がやはり我々から見ると南のほうにありますので、そういったなかでそういった心配もしているやに伺っておりますし、できれば北海道のほうに少し拠点を分散したいという言葉もいただきましたので、それであれば是非福島でどうですかという話しも私のほうからさせていただきましたので、とりあえずは事業を行うにしても、やはり社長のほうは我々の地域の環境なりそういった状況を知り得ておりませんので、我々としてもしっかりとまずは環境の調査なり色んなことを調査をして、そういったなかでお招きするという形が礼儀としてあるのかなという風に思っておりますので、ちょっと少し我々のほうとして専門業者のほうに委託しながら、福島で事業を展開するとしたらどうなんだろうということを基礎データを集めさせていただきたいと思っておりますので、そのデータに少し予算をいただいて、これからできれば北日本水産さんと連携をしながら、福島の港なり色んなところで新たな事業展開ができればなという将来展望抱いておりますので、その先ず切り口となる今回予算をいただきたいという風に思っておりますので、この2点について今回6月定例会のほうに補正をさせていただきますので、よろしくご理解をいただきたいと思っております。

このあと、細かいところについては福原産業課長のほうから、資料に基づき説明をさせていただきますので、どうぞご理解をお願いします。

よろしく申し上げます。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長のあいさつが終わりました。

次に、福原産業課長から説明をお願いいたします。

○産業課長（福原貴之）

まずは、ユニセンターのほうの資料をお願いします。

配布が最近だったもので、ちょっと読み上げて説明したいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

1、ユニ種育苗センター改修事業。

（1）現状と経緯について。

ユニ種育苗センターは、町が平成7年度に人工浮遊幼生を放流サイズまで陸上で中間育成しユニ稚仔の安定的供給を目的に整備したもので、管理を福島吉岡漁業協同組合に委託し種苗生産を行っていましたが、令和6年度に新たな水産種苗生産センターを整備、供用を始めたことで、現在、施設は休止している状況にあります。

町では、かねてから施設の利用を図るべく関係者と協議を進めておりましたが、先般、株式会社北海シーウィードから加工作業及び製品保管場所として施設を使用したい旨の要望があり、町では使用に向けた施設の補修整備をすることとしております。

（2）事業の目的について。

シーウィードは、吉岡地区において福島吉岡漁業協同組合と連携し、生コンブの乾燥・加工処理を行い、現在、稼働8年目を迎えております。

この間、「養殖昆布漁業者の所得向上」「雇用の創出」「マグロ漁業者の所得向上」など、町内経済の活性化に大きく寄与しているところであります。

親会社の株式会社ヤマザキでは、東京方面のコンビニエンスストア等に商品を販売しておりますが、福島町産昆布の人气が高く、特に、結びコンブの引き合いが多いことから、町内の水産加工業者に作業を委託している状況にあり、今後の生産体制を強化するにあたり加工作業及び製品保管場所の確保が課題となっております。

このような状況の中、町では、企業誘致した企業のさらなる生産向上に向け、また、本町で事業を継続していただくため、老朽化した当施設を改修し貸付することで進めております。

（3）改修工事の内容について。

先般の定例会5月会議において、施設内の水槽撤去及び排水溝埋設に係る費用を補正計上・議決して頂いておりますが、以上の事由から、今般、6月会議においては、屋根・外壁のポリカーボネート取替、換気扇取付け、主体構造部等補強等を行うための費用を補正計上することとしております。

①として、5月会議では事業費300万円、これは全て一般財源でございます。それで、今回補正する事業費は1,600万円、これを全て過疎債で対応する予定で進めてございます。

(4) 今後の方向性について。

天然資源が減少傾向にあり「つくり育てる漁業」の重要性が増す中、シーウィードの事業は未利用資源の間引きコンブの活用幅を広げ、新たな価値を創出しております。

今後も当町の主力産業である「養殖コンブ」について、生産の維持と漁業者が安定した収入を確保できるよう、シーウィードが継続して事業展開が図られるよう、町として支援を継続することとしております。

次のページをお願いします。

2、アワビ陸上養殖生産等調査事業。

(1) 現状と経緯について。

アワビ陸上養殖施設は、平成29年度に国の地方創生拠点整備交付金を活用し施設整備を行っております。

当施設では、アワビ種苗を北海道栽培漁業振興公社から購入しておりましたが、令和5年度に同公社で発生した「筋萎縮症(病気)」の影響により、種苗の確保が厳しい状況となった中、同公社から斡旋された岩手県の北日本水産株式会社から種苗を購入できる体制を構築しております。

しかし、令和7年2月に岩手県大船渡市で発生した林野火災により北日本水産が被災し、当面、種苗の確保が困難となっております。

このような中、北日本水産は、岩手県で海水温上昇が続いていることを背景に、北海道での生産を検討しているところであり、リスク分散の観点からも当町での事業展開の可能性について打診をいただいたところでもあります。

町では、当町のアワビ陸上養殖の方向性の検証と併せ、陸上養殖及び海面養殖の生産等の可能性について調査を行うことといたしました。

(2) 事業内容及び事業費について。

町では、当面、アワビ事業が地域経済の活性化に繋がる事業の可能性を検証するため、ノウハウのある北日本水産に対し、次の調査を委託することを予定しております。

①生育調査では、アワビ増産に係る基礎的な水質・立地調査や陸上及び海面での試験飼育による検証。

②事業評価では、町内で精算可能規模・必要設備の検討。

③計画検討では、来年度以降の福島町アクションプランの整理などを委託するものとしております。

④事業費につきましては、770万円がすべて一般財源となっております。

(3) 今後の方向性について。

今年度は生育調査を中心に実施し、後年度において経済効果等を調査することとしております。

最終的には、北日本水産が福島漁港の用地を活用した事業が将来にわたり展開できる可能性を調査するものであり、企業誘致を目指した取組みを福島吉岡漁業協同組合とともに進めることとしております。

なお、これとは別に水産庁が推し進めている「海業(うみぎょう)」というキーワードがございます。この海業という部分についても福島吉岡漁業協同組合が事業主体となって海業の申請、アワビについての観光的な周遊プランだとかそういう部分の調査を今、水産庁に手を挙げているところで採択はまだ来ておりませんが、漁協のほうでも事業を展開しているということと併せて報告したいと思っておりますので、よろしくをお願いします。以上でございます。

○委員長(佐藤孝男)

それでは、内容の説明が終わりましたので、何か確認したいことはありますか。

小鹿委員。

○委員(小鹿昭義)

このコンブのほうの貸付、これは月単位の貸付なのか年間の貸付なのか、どっちなのでしょう。

○委員長(佐藤孝男)

福原産業課長。

○産業課長(福原貴之)

基本的には年間の使用料を計算して月単位で計算するという流れですけど、今、思っているのは過疎債も使いながら、企業にしっかり根付いてもらうというのが大事なものですから、過疎債を充当するにあた

っては賃借料を取らないという部分で、町がやっているんだという部分に対しては過疎債充当になるものですから、使用料をいただかない方向で検討できればと考えております。

○委員長（佐藤孝男）

いいですか。

藤山委員外議員。

○委員外議員（藤山大）

2点ほど伺います。今回、5月に一般財源で300万上がったじゃないですか。今回また6月に対して1,600万円。これは過疎債だけ、一般財源は入っていないんですか。全部、過疎債だけでこうなっているんですか。その辺を1点だけお願いします。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

5月に300万予算計上したのが、前段の水槽撤去とコンクリートで埋設するという部分、これがまずやらないと躯体の状況が見えないということで2段階の方法で対応させていただきました。

これは前回の5月会議の時にしっかり私のほうで説明すべきところだったんですけど、その事業だけを説明したものですから、またもかという風になるかもわからないんですけど、そこは2段階の状況こういうことで、水槽を取ってから中を見て躯体を見ながらという部分でこういうような要求となりました。

それで、300万については当然何も補助とかないものですから一般財源。1,600万も当初一般財源だろうなという思いもしながら、町長と振興局に行って色々補助金のあり方、起債のあり方とかも色々整理したなかで、さっき小鹿議員に言ったとおり過疎債充てるためにはお金取っちゃならないという部分があるので、そこら辺がクリアできるのであれば過疎債が充当できるという部分で、今回過疎債ということで財源予定しております。

○委員長（佐藤孝男）

藤山委員外議員。

○委員外議員（藤山大）

今回また1,600万新たにすることに今までもある程度黒字経営なりその辺はされていると思うのですが、1,600万かけることによって、どれくらい見込まれますか。

例えばですけど、施設が広がってある程度売上が上がるとは思うのですが、どれくらい掛ける金額に対して、どれくらいの利益アップ見込めるのかを分かる範囲でお伝えください。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

企業の話なので、いくら利益上昇するかという部分は当然そこは企業の話であって、私達が今把握しているものではないんですけど、ただ、隣に今の北海シーウィードさんの隣に加工・保管場所という部分で整備することによって取扱量が上がるということ、それと、町長のあいさつにもあったとおり結びコンブが非常に全国的に需要があると。そういう部分をどう進めて行くかという部分の中の今のユニセンターの改修なので、これがやっぱり……。それで、経済効果は求められるものと思っております。

○委員長（佐藤孝男）

藤山委員外議員。

○委員外議員（藤山大）

さらにちょっともう少し、要は分からないというのは分かるんですけど、やっぱりね1,600万掛けるんですよ。それくらいは把握は大事だと思うんですよ。会社のあれにあってもこれだけのあれを掛けるんですから、ある程度の利益上がらないと困ることですよ。その辺もある程度把握しておいたほうがいいと思うのですが。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

基本的に今、ヤマザキさんが現地法人を作っていただいてシーウィードとして運営しています。今まで

はヤマザキさんから相当お金を出して、ある程度の収支をバランスを取っているというのが現状であります。だから単体でしっかり経営の収支としてうまみがあるのかと言えば、なかなか厳しい状況です。

ただ、今言ったように最近は結びコンブなり色んな事業が展開されていますので、走りの頃とはだいぶ違ってきているとは思いますが、ただ、我々としては1,600万掛けて大きな投資ではありますけれども維持してもらわないことには、企業ですから儲からないと撤収しますので、そのところをしっかりと町としての思いを伝えるためにも今回は大きな予算ですけども投資をしていただいて、我々としてはそこをしっかりと新しくなった社長さんのほうに訴えて、当然、ヤマザキさんもうちのほうもいいというのは知っていますから、それをずっと使いたいという思いもあるんですよ。ただやはり、民間経営ですからあまりうまみがない所にずっと居るわけありませんので。

ただ、見込みとしては、よく杉本専務がこちら現地に来てお話ししていますけれども、ある程度の年数を踏んでいけば、きっちり収支バランスはあるのかなというお話しをしていただいておりますけれども、ただやはり初期投資とか色んなことを考えると、今のところしっかり黒字化という、ある程度ヤマザキ本体のほうでお金を出して多少回しているのもありますので、ただ、その本体自体がしっかりとシーウィードを応援してくれていますので、そのところを我々としては切ることのないように、我々として、しっかり思いを予算化していかなければ民間のほうはやっぱり早いですから、撤収するとなればカッといなくなりますので、当然今、先ほど言いましたとおり、漁業者の方々にはかなりメリットと言いますか、本来であればこれまで活用されていない間引きコンブを手いらずで受け入れてくれていますし、そのマグロの方々にもやはり1漁家あたり150を超える収入が入ってきますので、そういったものをまたそこで雇われている方が10何人以上いますので、そういった方々のことも考えますと町としてはしっかりしたメリットはあるんだという風に思っておりますので、ちょっと少し大きな予算ではありますけれども、今回かけて、これをお土産にまたちょっと静岡の社長のほうにお会いしに行く予定していますので、しっかりまた地元の声も届けてはきたいなと思っております。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに、ないですか。

あとの6月会議の補正で出ますので、詳しいことありましたらその際に質問していただければと思います。

それでは、以上で報告を終わりたいと思います。

説明員の方は退席をお願いします。

ご苦労さまでした。

次に、2の（1）意見書の採択について、①「ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める意見書」を議題といたします。

暫時休憩いたします。

（休憩 10時04分）

（再開 10時08分）

○委員長（佐藤孝男）

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

お諮りいたします。

①の意見書を提出することに賛成の方は、起立を願います。

（賛成者起立）

○委員長（佐藤孝男）

起立全員です。

したがって、本意見書の提出は可決されました。

意見書の内容等の調整につきましては、委員長に一任願いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○委員長（佐藤孝男）

ご異議なしと認め、意見書の内容等の調整につきましては、委員長に一任されました。

次に、同じく意見書の採択について、②令和7年度北海道最低賃金改正等に関する意見書を議題といたします。

暫時休憩いたします。

(休憩 10時09分)

(再開 10時13分)

○委員長（佐藤孝男）

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

お諮りいたします。

②の意見書を提出することに賛成の方は、起立を願います。

(賛成者起立)

○委員長（佐藤孝男）

起立全員です。

したがって、本意見書の提出は可決されました。

意見書の内容等の調整につきましては、委員長に一任願いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○委員長（佐藤孝男）

ご異議なしと認め、意見書の内容等の調整につきましては、委員長に一任されました。

次に、同じく意見書の採択について、③「安定的な地域医療の確保に向け公立病院等への財政支援を求める意見書」を議題といたします。

暫時休憩いたします。

(休憩 10時14分)

(再開 10時22分)

○委員長（佐藤孝男）

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

お諮りいたします。

③の意見書を提出することに賛成の方は、起立を願います。

(賛成者起立)

○委員長（佐藤孝男）

起立全員です。

したがって、本意見書の提出は可決されました。

意見書の内容等の調整につきましては、委員長に一任願いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○委員長（佐藤孝男）

ご異議なしと認め、意見書の内容等の調整につきましては、委員長に一任されました。

次に、(2)「定例会6月会議後の休会中の所管事務調査について」を議題といたします。

暫時休憩いたします。

(休憩 10時23分)

(再開 10時38分)

○委員長（佐藤孝男）

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

それでは、定例会6月会議後の休会中の所管事務調査は、「2、有害鳥獣対策の現状について」、「3、アワビ陸上養殖事業の進捗状況について」、そして、その他所管に関する事項とするということでありま

す。

とし、令和7年度定例会6月会議に休会中の所管事務調査事件として申し出をいたしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○委員長(佐藤孝男)

ご異議なしと認め、ただいまお諮りした内容で、令和7年度定例会6月会議に休会中の所管事務調査事件として申し出をすることに決定いたしました。

○委員長(佐藤孝男)

次に、(3)の報告事項についてを議題といたします。

暫時休憩いたします。

(休憩 10時40分)

(再開 10時50分)

○委員長(佐藤孝男)

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

最後に、3のその他について、何かございませんか。

(「なし」という声あり)

○委員長(佐藤孝男)

ないようですので、以上で、本日の案件をすべて終了いたしました。

これをもちまして、経済福祉常任委員会を閉会いたします。

どうも、ご苦労さまでした。

(閉会 10時50分)

福島町議会会議条例第157条の規定により署名する。

経済福祉常任委員会委員長 佐藤孝男